

様式第二号の九(第八条の四の六関係)

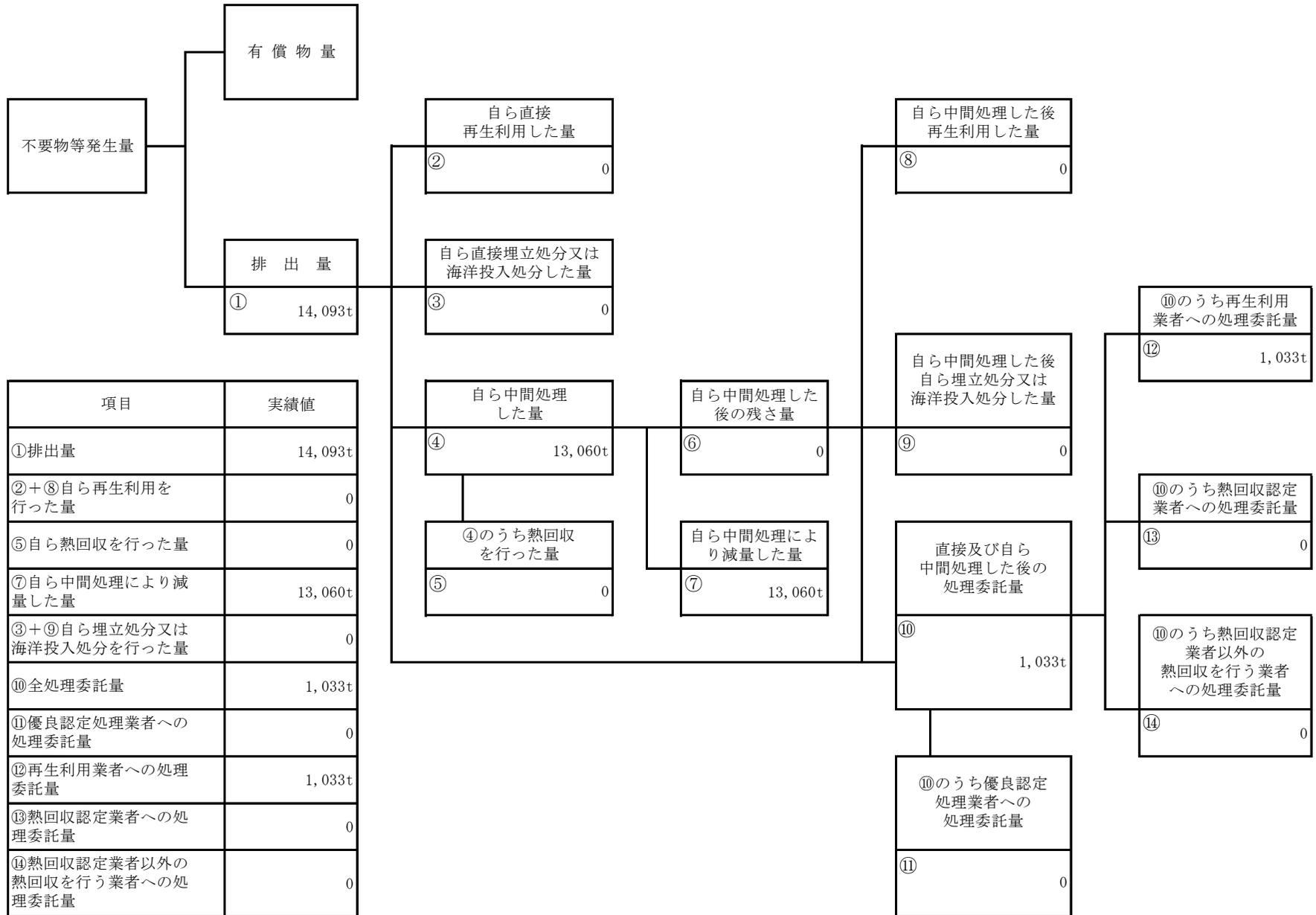
(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書 令和6年 4月 24日 北九州市長 武内 和久 様 提出者 住 所 大分県大分市小中島2丁目4番45号 氏 名 九州製紙株式会社 代表取締役 田北 裕之 電話番号 (093)663-7771 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和5年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。			
事業場の名称	九州製紙株式会社 北九州工場		
事業場の所在地	北九州市八幡東区大字前田2142-1		
事業の種類	機械すき和紙製造業		
産業廃棄物処理計画における計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日		
産業廃棄物処理計画における目標値			
項目	目標値	項目	目標値
排出量	17,000 t	全処理委託量	2,200 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への処理委託量	0 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	2,200 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	16,400 t	認定熱回収業者への処理委託量	0 t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t
※事務処理欄			

(日本工業規格 A列4番)

計画の実施状況

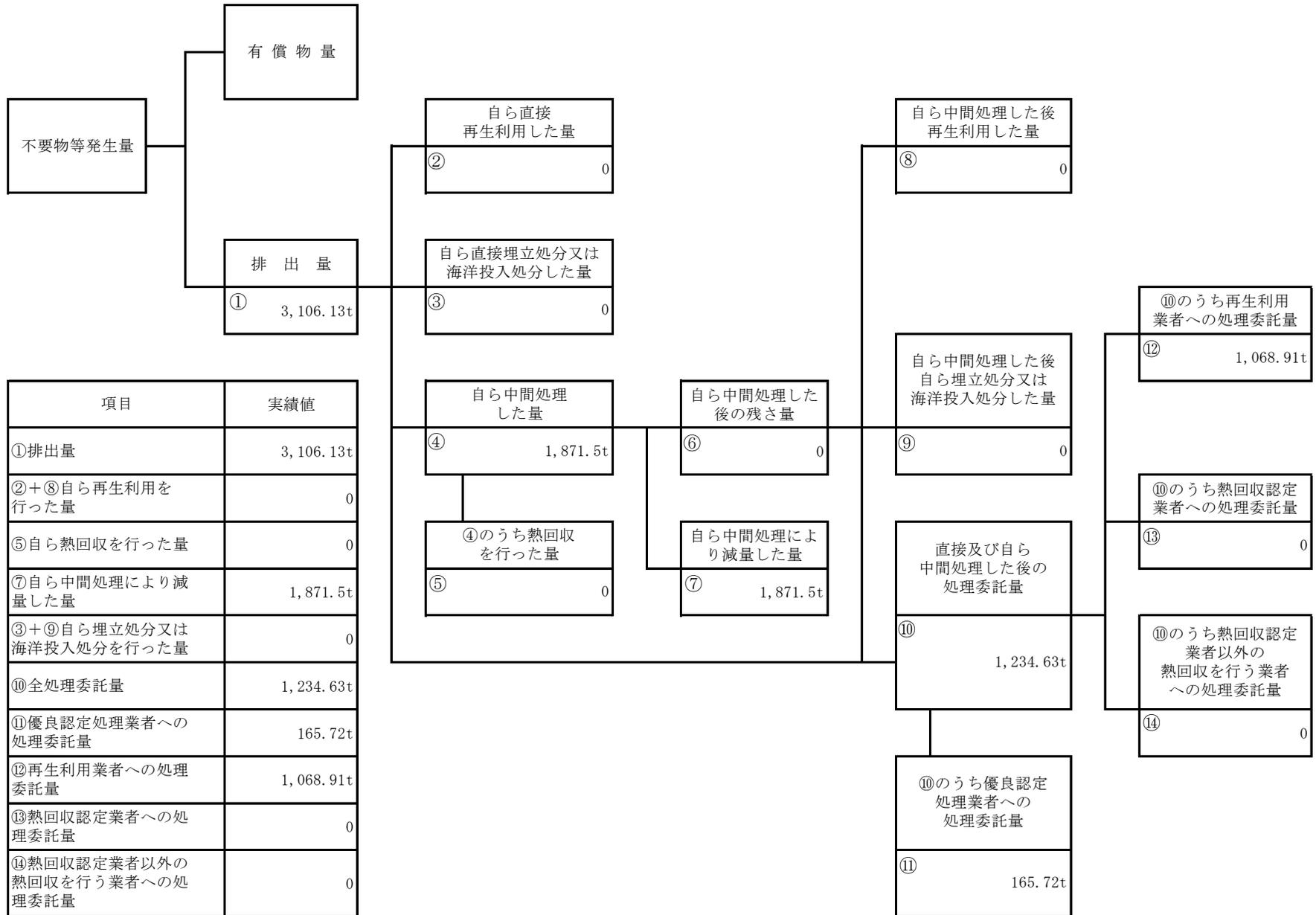
(産業廃棄物の種類： 汚 泥 )



項目	実績値
①排出量	14,093t
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	13,060t
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	1,033t
⑪優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫再生利用者への処理委託量	1,033t
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類： 廃プラスチック )



項目	実績値
①排出量	3,106.13t
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	1,871.5t
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	1,234.63t
⑪優良認定処理業者への処理委託量	165.72t
⑫再生利用者への処理委託量	1,068.91t
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
  - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
  - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
  - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
  - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
  - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
  - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
  - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
  - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
  - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
  - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
  - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
  - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
  - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
  - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

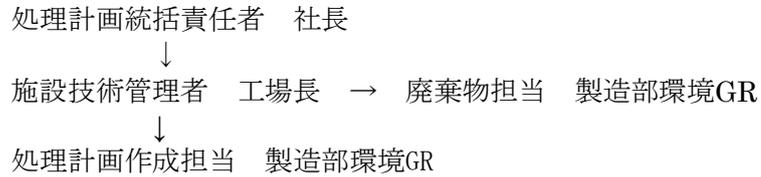
産業廃棄物処理計画書 令和6年 4月 24日 北九州市長 武内 和久 様 提出者 住 所 大分県大分市小中島2丁目4番45号 氏 名 九州製紙株式会社 代表取締役 田北 裕之 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 093-663-7771 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	九州製紙株式会社 北九州工場
事業場の所在地	北九州市八幡東区大字前田2142-1
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	機械すき和紙製造業
②事業の規模	令和5年度販売額 34.09億円
③従業員数	57人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	水処理工程→汚泥 委託処理 (セメント原燃料化とし再利用) 自社処理 (製鉄用副資材として再商品化) ↑ 原料工程 → 原質工程 → 抄紙工程 → 加工工程 ↓ 廃プラスチック 委託処理 (セメント原燃料化とし再利用) 自社処理 (RPFとして再商品化)

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	排 出 量	14,093 t	3,106 t
	(これまでに実施した取組) 古紙リサイクルによるトイレットペーパー製造で、古紙事情にも左右されますが、工程内の歩留りを悪化させないことやプラスチックの多い原料は、出来る範囲で購入を控えるようにしています。 汚泥は、含水率が悪化しないように脱水管理にも注意しています。  補足) 汚泥含水率約50% 廃プラ含水率約60%		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	排 出 量	12,600 t	2,800 t
	(今後実施する予定の取組)  汚泥は中間処理を進めることで廃棄物の再資源化を図り、廃プラスチックは、減容処理（RPF）の安定化を図る。		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 一昨年より、トイレットペーパー製造で発生する包装フィルム屑の有価売却を再開しています。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	13,060 t	1,871 t
(これまでに実施した取組) 汚泥は、中間処理後に製鉄用副資材として販売。 設備老朽化により、乾燥キルンの更新を実施している。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	14,000 t	2,400 t
(今後実施する予定の取組) 廃プラ減容設備の故障が多い為、メンテナンスを強化している。 減容設備についての、更新も検討している。			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) これまでに自社で埋め立て処分及び海洋投入処分をおこなっていない。		
	【目標】		
②計画	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も予定はない。		
	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
① 現状	全 処 理 委 託 量	1, 0 3 3 t	1, 2 3 4 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	1 6 6 t
	再生利用業者への処理委託量	1, 0 3 3 t	1 0 6 8 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 発生した汚泥・廃プラスチックの一部は、セメント会社に原燃料として処理委託しています。		
	産業廃棄物の処理の委託に関する事項		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃プラスチック
	全 処 理 委 託 量	1, 0 0 0 t	1, 0 0 0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	1 0 0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1, 0 0 0 t	9 0 0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。